

【管内の感染症の発生状況等について】

- 管内の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の定点当たり報告数は緩やかな増加傾向にあり、第29週では1.40でした。また、管内のインフルエンザ定点当たり報告数は低い値で推移しており、第29週では0.30となっています。（管内の定点当たり報告数は別表グラフを併せてご覧ください。）
- 管内の感染性胃腸炎の定点当たり報告数は第29週に4.50となり、週ごとの増減はありますが横ばいで推移しております。県内では施設等における感染性胃腸炎の集団発生報告が続いており、注意が必要です。
- 伝染性紅斑の定点当たり報告数が過去5年間と比較し高い値で推移しています。管内では第26週以降減少傾向にありますが、県内では4月24日付で流行警報が発令されていて未だ高い値で推移しているため、今後も動向に注意が必要です。
- 主な感染症の定点当たり報告数

報告週	COVID-19		インフルエンザ		水痘		感染性胃腸炎		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		伝染性紅斑	
	管内	茨城県	管内	茨城県	管内	茨城県	管内	茨城県	管内	茨城県	管内	茨城県
25週 (6/16~6/22)	0.10	1.25	0	0.07	0.17	0.39	5.00	4.89	0.50	4.39	4.67	3.74
26週 (6/23~6/29)	0.60	2.26	0	0.10	0.17	0.26	6.17	5.26	1.17	3.92	3.17	3.29
27週 (6/30~7/6)	1.10	3.07	0	0.46	0	0.18	3.00	5.16	0.33	3.61	3.00	3.26
28週 (7/7~7/13)	0.90	3.12	0	0.31	0.17	0.32	5.00	4.92	0.67	3.53	2.67	2.45
29週 (7/14~7/20)	1.40	4.03	0.30	0.24	0	0.16	4.50	5.05	0.33	3.95	1.67	2.55

○ 全数把握感染症の発生届（管内）

報告週	二類感染症	三類感染症	四類感染症	五類感染症
25週 (6/16~6/22)	結核 1件		レジオネラ症 1件	百日咳 18件
26週 (6/23~6/29)				梅毒 2件 百日咳 22件
27週 (6/30~7/6)		腸管出血性大腸菌感染症 1件		百日咳 38件
28週 (7/7~7/13)				百日咳 19件
29週 (7/14~7/20)				百日咳 30件

★ 茨城県感染症流行情報週報（2025年第29週）

<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/idwr/weekly/documents/2025idwr29.pdf>

★ 茨城県感染症流行情報月報（2025年6月号）

<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/idwr/std/documents/2025mrp06.pdf>

★ 茨城県衛生研究所における病原体検出情報（2025年6月号）

<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/kikaku/microbe/documents/202506kensyutu.pdf>

★ インフルエンザ流行情報（2024-2025シーズン）

<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/idwr/influenza/2024-2025.html#gakkyuuheisa>

★ 茨城県感染症発生動向調査事業年報（2023年）

<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/idwr/2023nenpou.html>

### 【百日咳について】

- 県内では百日咳の発生が増加しており、特に中高生の間で感染拡大がみられております。  
百日咳は、百日咳菌（Bordetella pertussis）によって起こる急性気道感染症です。乳児期早期から罹患する可能性があり、特に生後6カ月未満の乳児では重症化しやすく、まれに死に至ることもある疾患です。  
予防には、ワクチン接種が有効です。また、手洗い、マスク着用、咳エチケットなどの基本的な感染対策も重要です。
- 百日咳の治療には、マクロライド系抗菌薬を第一選択薬として用いることが推奨されていますが、近年、マクロライド耐性百日咳菌の出現が問題視されており、本県においても、2024年に1例、2025年に3例、マクロライド耐性百日咳菌感染症例が確認されております。

★ 百日咳の報告数が増加しています（茨城県感染症情報センター）

<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/kikaku/kikaku/hyakunitiseki.html>

★ 5種混合ワクチン（厚生労働省）

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/yobou-sesshu/vaccine/dpt-ipv-hib/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/yobou-sesshu/vaccine/dpt-ipv-hib/index.html)

### 【ダニ媒介感染症について】

- ダニ媒介感染症とは、病原体を保有するダニに刺されることによって起こる感染症のことで、中には死亡例が報告されているものもあります。人が野外作業や農作業、レジャー等で、これらのダニの生息場所に立ち入ると、ダニに刺されることがあります。ダニがウイルスや細菌などを保有している場合、刺された人が感染症を発症することがあるため注意が必要です。
- 茨城県内では、ヒトの刺症例が報告されているキチマダニ、ヤマアラシチマダニ、タカサゴキララマダニなどが広く生息していることがわかっています。生息場所は山林だけではなく、畑、公園、庭の草むらなど日常生活で出入りする身近な場所に生息している場合もあります。
- マダニに刺されないために、草むらなどマダニが多く生息する場所に立ち入る場合は、長袖・長ズボンを着用する等、肌の露出を少なくすることが重要です。マダニに刺されたら無理に取らず、医療機関（皮膚科）で処置（マダニの除去、洗浄など）を受けてください。

★ ダニ媒介感染症に注意しましょう

[https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/kikaku/tick-borne\\_disease.html](https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/kikaku/tick-borne_disease.html)

★ ダニ媒介感染症（厚生労働省）

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164495.html>

★ つつが虫病（国立健康危機管理研究機構HP）

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ta/Scrub-Typhus/010/tsutsugamushi.html>

★ 日本紅斑熱（国立健康危機管理研究機構HP）

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ta/jsf/010/jsf-intro.html>

★ 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に注意しましょう

<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/kikaku/sfts.html>

★ 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）（国立健康危機管理研究機構HP）

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/sa/sfts/index.html>